

JN 3.3 注記:

ニコデモはイエスの奇跡を信じていた求道者ですが、イエスが肉体を持った神であるという真の正体についてはまだ信仰に達していませんでした。彼は「夜」にきました（ヨハネは19.38でこれについて再度言及しているので重要です）。この描写はおそらくヨハネにとって二重の意味を持っています。（1）象徴的に、彼は霊的な暗闇から抜け出してキリストにおける神の啓示の光の中に入る」としており、（2）文化的に、夜にラビに会い学ぶ」ために旅をすることは、イエスを知りたいという彼の渴望の表れでした。

ニコデモはイエスの宣教活動に神が働いているのを見」」ます。「私たちはあなたが教師として神のもとから来たことを知っています。神が共におられないなら、あなたのような奇跡を行うことはできないからです。」 3.2 彼は自信を持って「私たちは知っています」と言いますが、イエスは衝撃的な言葉で彼の言葉を遮ります。イエスはニコデモにこう言っています。「あなたは神が働いているのを見ることができと思っています。しかし、真実は、あなたが私を信じるまで、あなたは盲目なのです。あなたは今、神の王国の何も」見る」ことはできません。まず劇的な何かが起こらなければなりません。」

当時のすべてのユダヤ人にとって困惑させるものでした。（イエスは会話の後半で二人称単数から複数に切り替えます。イエスはこの会話の中ですべてのユダヤ人、そして実際すべての人々に語りかけているのです。）ニコデモは、イスラエルの最高の聖書教師であり、男性で、イスラエルの統治評議会であるサンヘドリンの一員であり、金持ちで、パリサイ人（社会の精神的エリートとみなされている）、そして忠実で敬虔なユダヤ人です。一般的な考え方では、彼のような男以上に神に喜ばれる人はいません。しかし、イエスはニコデモ」の状態を評価し、彼が神を本当に理解したり見たり」することを可能にする心のメカニズムをまったく持っていないため、彼の霊的盲目はコウモリよりも盲目であると判断されました。何が欠けているのでしょうか。すべてです！イエスは、生まれ変わるために、もう一度最初からやり直さなければならないと言っています。

」本当に、本当に...」これはヨハネによる福音書の中でこの重要なフレーズが2度目に使われている箇所です。この会話の中では、このフレーズがいくつか使われています。これらはイエスの宣教活動における最も重要な宣言なので、私たちは注意を払わなければなりません。

」人は上から新しく生まれなければ...」ヨハネはここで二重の意味を持つ別の言葉を使っています。だからこそ、私は自分の翻訳に両方を含めました。これはヨハネによる意図的な言葉遊びです。ギリシャ語の「アノセン」は「再び」または「上から」を意味します。ヨハネは両方を意味していました。イエスは、人間起源ではなく、神の源である聖霊からの第二の誕生について語っています。13節までの対話の残りはこの概念を説明しています。ニコデモはイエスの言っていることを誤解し、理解もしていません。

」彼らは神の国を見ることができない...」物理的な視力は、通常、神が人に生まれたときに与える能力であるように、霊的な視力は霊的な誕生から来ます。神の国を」見る」力...イエスにおけるすべての被

造物に対する神の主権は、私たちの肉体的な目ではなく、聖霊の誕生に属する一連の霊的能力から来ます。この第二の誕生がなければ、神の国の現実に関する限り、私たちは「盲目」です。

ニコデモは世界中のすべての人々の模範です。私たちは皆、神の王国を「見る」、つまり真に知覚し理解するための霊的な目を持たずに肉体的に生まれます。神の統治は、創造された他のすべてのものが存在し機能することを可能にする現実の基本的な下部構造であるため、神の王国を「見る」ことができません、その中で機能できないことは、非常に深刻な問題です。私たちは聖書の知識、包括的な神学、宗教的経験、「霊性」、熱心な教会への出席、および私たちの身体的能力がもたらすその他のすべてのものを持つことができますが、私たちの中に新しい性質と能力を創造する聖霊の力がなければ、私たちは本質的に、私たちの内と私たちの周りにある神の統治を体験することができません。この事実には例外はありません。

ヨハネ 3.5 注釈

の最も広く使われている物語技法の一つである、誤解の利用の典型的な例です。イエスが誰と話しているにせよ、彼らはイエスの言っていることをほとんど常に誤解し、質問します。イエスがより多くの情報を与えるにつれて、新たな誤解が生まれます。これは巧妙なアプローチです。なぜなら、ヨハネの読者のほとんどが対話の登場人物と同じ誤解を抱いており、ヨハネは実際に対話を通じてそれらの誤解に対処しているからです。人々がイエスを信じることへの反対は、誤った理解、またはまったく理解していないことに基づいていることが何度もわかります。だからこそ、イエスは良い知らせを教え、説教したのです。地上で実際に起こっている天の事柄について、明確な理解を与えるためです。

の会話は三位一体の原則に従っていることにも注目すべきです。主題は救いの本質であり、イエスは、救いは行いの結果ではなく、人間側ではイエスを救世主として信じることによって、そして神側では父の計画(3.16-21)に従って聖霊(3.3-10)と子(3.11-15)の恵み深い働きによって得られると説明しています。このセクションでは、イエスは救いに不可欠な聖霊の働きに焦点を当てています。

「どのように？」という質問に関連して2つの質問をしています。これはイエスが何を語っているのか誤解していることを示しています。文字通り二度目の肉体の誕生。そのことで彼は、空間と時間という二つの不可能な障壁を目にすることになる。赤ん坊は「若い」状態で生まれ、彼はすでに「年老いている」。どうしてそんな風に時間を逆転させることができるのだろうか？第二に、誕生は子宮から起こりますが、この時点ではイエスはそこに戻ることはできません。これらは確かに大きな問題ですが、イエスが子宮からの二度目の誕生について語っているのではなく、「上から」聖霊によって語っているので、全く無関係です。そこでイエスはこの重要な点を明確にします。

この福音書の3番目の「まことに、まことに」という文、そしてこの会話の2番目の文で、イエスは最初の誕生は「水による」ものであり、2番目の誕生は「霊による」ものであると説明しています。長年にわたり、多くの人々はここでの「水」をバプテスマを意味すると解釈してきました。しかし、新約聖書では、バプテスマは常にイエスを神の子として信じる救いの信仰に続くものであり、信者がイエスにおい

てすでに経験したことの証しです。バプテスマは聖書を信じる行為と同時にされることは決してありませんが、イエスは「この箇所では」霊によって生まれる」ことが救いの始まりであると教えておられます。ですから、ここでイエスが水を使って「バプテスマ」を意味していたはずはありません。さらに、この点を明確にするために、イエスは次のように言っています。「肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊である。」 3.6 明確にする全体的なポイントは、最初の誕生は肉体的な「肉の」誕生であり、「水」を伴うものであり、2 番目の誕生は「上からの」誕生であり、「霊の」「誕生であり、「霊」を伴うということです。では、イエスが語る肉体的な誕生のこの「水」とは何でしょうか。

妊娠中、胎児は子宮を満たす羊水に浸されることによって保護されます（ギリシャ語の「バプテスマ」の意味）。イエスやニコデモを含むすべての文化において、羊水は主に H₂O で構成されているため、単に水と呼ばれています。胎嚢が破れて「水」が子宮から出ると、「破水した」と言います。この「水」が最初に出てこなければ、赤ちゃんは物理的に誕生しないので、この言葉は誕生を意味するために使われました。要点は、第二の誕生は、私たちの第一の誕生のように「水」や「肉」や物理的な誕生ではないということです。ニコデモは誤ってそう思い込んでいました。したがって、イエスの要点は、第二の誕生は聖霊の力によって起こることです。次の「日々の言葉」で、これについてさらに詳しく調べます。私が「水」についてこの詳細を述べたのは、それがこの箇所、そしてヨハネの福音書の中で、イエスの最も誤解されている言葉の 1 つだからです。

、聖霊の誕生がなければ、人は「神の国に入ることはできない」と言いました。「入る」は、3 節の「見る」とほぼ同じ意味ですが、「誕生」のイメージに明確さを加えています。私たちは誕生を始まりと考えますが、実際には、生き物が一つの環境から別の環境に移行することです。赤ちゃんは子宮の中で生き、成長しており、一つの「世界」を出て別の世界に入ります。この真実の重要性は、すでに死亡した子供を出産するどの母親にも見られます。移行は起こりますが、継続的な生命がなければ、「誕生」は本当の誕生ではありません。誕生とは、私たちが新しい世界、この場合は神の王国に入ることを意味します。聖霊の働きなしには神の王国の性質を理解したり認識したり（「見る」）できないのと同じように、聖霊の力なしには神の王国を経験することはできません。これが重要なポイントです。新しい誕生は私たちを変えるのではなく、イエスが統治し、イエスの価値観とやり方が普通で慣習的であり、新しい愛の言葉が話されるまったく新しい環境に移行することです。それはまるで、自分の国とは全く違う国に移住するようなものです。私たちは神の王国の国民となり、その地で神のライフスタイルを学ぶ永遠の旅をするのです。

JN 3.6 注釈

イエスはこの会話全体を通して、第二の誕生における聖霊の働きを説明するために言葉遊びをしました。福音書の原文の読者は皆、それをすぐに理解しました。残念ながら、翻訳ではイエスのメッセージのこの側面を表現することができません。ギリシャ語で「息」「霊」「風」を表す言葉はすべて同じで、プネウマです。これはイエスが何を言っているかの重要な洞察を提供します。それは、上からの第二の

誕生が新しい世界への移行であるという考えを強調しています。これを少し調べてみましょう。子宮の中では、母親が自分自身と、その内部で成長する生命の両方のために呼吸をします。胎児は自分で呼吸しません。赤ちゃんが新しい世界に入るために最初に行う必要がある行動は何でしょうか。呼吸です。神は私たちを、最初の誕生で空気の環境で物理的に生きるように創造しました。私たちの最初の孫が、呼吸管が詰まって空気を吸えない状態で生まれたとき、私を襲ったパニックをよく覚えています。呼吸がなければ命はない、それだけです。医者、永遠のように思えるほど長い間、必死に彼女の治療に取り組んでいました。その最初の泣き声を聞いたとき、私たちはほっとしました。なぜなら、それは彼女に命を維持するための呼吸があり、彼女は生きることを意味していたからです。空気は最初の誕生の世界の環境です。精神は第二の誕生の世界の環境です。

さて、人類の創造のときに何が起こったかを思い出してください。」「主なる神は土のちりで人を創造し、その鼻に命の息を吹き入れられた。人は生きた者となった。」「創世記 2:7 これがアダムの誕生であり、彼が息を吹き始めたときです。そして、復活後のヨハネの福音書で、イエスはこのイメージをさらに次のように説明しました。」「父が私を遣わしたように、私もあなたたちを遣わします。」「こう言うことから、イエスは彼らに息を吹きかけてこう言いました。」「聖霊を受けなさい。」「20:21B-22のようにゲン 2.7、「息を吹き込んだ」と訳されている動詞は、ギリシャ語では「霊」と同じ言葉です。言い換えれば、私たちの人生の二番目の大きな移行期である神の王国への基本的な生活環境を提供するのは、霊、つまり神の息吹なのです。空気と呼吸が私たちの最初の誕生にとって何であるか、聖霊と聖霊の絶え間ない満ちが、神の王国への私たちの二度目の誕生にとって何であるか。パウロはこう言っています。」「神の国は、食べることと飲むことなく、聖霊の領域にある正義と平和と喜びです。」「ローマ 14:17 聖霊がなければ、新しい世界への移行はありません。(イエスは3:8でも「風」の意味を「聖霊」に当てはめていますが、このことわざについては後で扱います。)

また、ヨハネは、イエスがこの「霊/息」という語呂合わせを、生命の最も基本的な必要を表す3つの比喩、すなわち息(第3章)、水(第4章)、食物/パン(第6章)の最初のものとして記録していることにも注目すべきです。言い換えれば、私たちは空気、水、食物よりもイエスを必要としているのです。イエスは、神が生きることの豊かさを体現した命であり、イエスを信じるすべての人にこの命を与えてくれます。ヨハネによる福音書にあるイエスのこれらの言葉を読み進めていくうちに、私たちは多くのことを楽しみにしていられます。

聖霊は、王国の「雰囲気」であり、王国を機能させる力です。聖霊が私たちの中に入ると、私たちはそこに入ることができます。まるで私たちの肺に空気を吸い込むように。王国のこの「新しい世界」は、この世と正反対です。文字通り、王国では「上」に行くには「下」に行く必要があります。次の言葉を考えてください。「人の目に尊ばれるものは、神の目に忌み嫌われるものである。」「ルカ 16:15B 王国とは、王であるイエスが」すべてであり、すべての中におられ、また「すべてのものは神から発し、神によって成り、神のためにある」領域です。聖霊の力だけが、あなたや私のような罪深く自己中心的な人々に、人生はすべて神に関するものであり、私たちのためではないことを納得させ、たとえ自分の

命を犠牲にしても、神の栄光と名誉のために燃えるような献身で私たちを満たすことができます。それが王国の弟子たちの通常の態度に過ぎません。

JN 3.7 注釈

のもう一つの命令が記録されています。「驚いてはいけません ...」これはニコデモに言われた一般原則型の命令ですが、すべての人に当てはまります。なぜなら、イエスは「あなた方はみな、上から生まれ変わらなければなりません」という引用で意図的に二人称複数形を使用しているからです。この二重の命令、「私があなた方に言うことに驚いてはいけません」と「あなた方はみな、上から生まれ変わらなければなりません」は、神の玉座から各個人への真理であるため、世界中のすべての人に明確に伝えられる必要があります。

この言葉の中に、「7つの」必要な」文のうち最初の文を記録しています。「あなた方はみな、上から新しく生まれることが必要です。」この聖霊による新しい誕生は単なる選択肢ではなく、救われるためにすべての人にとって必要かつ不可欠なものです。この真理はニコデモだけでなく、世界中のすべての人に当てはまります。

ニコデモの心と精神はイエスの言葉に動揺しています。ニコデモは、大統領や国家の指導者の就任式で受けるような、同僚からの賞賛と尊敬に慣れていました。今、イエスはニコデモに、あなたは何も知らない、神の王国への第一歩さえ踏み出していない、と告げています。これは謙虚になるどころか、ニコデモのような人間にとっては壊滅的なことです。だからこそイエスは「驚いてはいけない」とおっしゃるのです。感情的な反応にとらわれて時間を無駄にしないでください。その代わりに、自分の命を守るために行動を起こしてください。誰かがドアをたたきながら「あなたの家が燃えている」と叫んでいるとき、感情的な衝撃は確かに圧倒的ですが、生き残るためには、そうした感情をすべて脇に置き、真実に対応する意志を働かせる必要があります。迅速な行動は、自分の命を救う機会の窓を開きます。ここでイエスは「火事だ！」と叫んでいるのです。イエスは後に宣教活動の中でこう言われます。「あなたは小さな子供のように神の王国に入らなければなりません。」自分自身を救うことができないという、まったく無力な自分の無力さを受け入れることは、ニコデモのような優秀な人だけでなく、すべての人にとって謙虚なことです。肉体的にも霊的にも、自分で自分を産むことができる人は誰もいません。私たちは聖霊の恵み深い働きを通して新しい誕生を受けるか、そうでなければ生まれません。傲慢さは誰も救いません。謙虚さが救います。

イエスが私たちに何か非常に重要なことを告げているのに、私たちがその命令を無視すれば、確実に破滅します。だからこそ、愛は、人生で最も重要な生存の真実に関しては絶対的な命令で語るのです。命を救う命令を出したことを謝る人はいません。実際、行動を起こさなければ死に至る結果になるのに、そうしないのは怠慢であり、憎むべき行為です。死をもたらす物質が入ったボトルには、「飲まないでください」と書かれています。イエスが「毒だ！」とできるだけ明確に言ったのには理由があります。それは、イエスがこの言葉を通して人類に与えている極めて重大な警告なのです。

JN 3.8 注釈

イエスの「プネウマ」という語呂合わせは「風/息/霊」を意味し、旧約聖書のエゼキエルの預言に強力な背景を持っています。二コデモはこれをすぐに理解すべきでした。エゼキエル書 36 章 26、27 節で、神は民の中に御霊を置き、それによって民を神に従わせると約束しています。また、バビロンの捕囚からユダの地に民を復歸させると約束しています。37 章では、忘れられない預言でこれらの考えが展開されています。エゼキエルは、死んで乾いた骨で満たされた谷を見ます。これは捕囚されたイスラエルの姿です。神はエゼキエルに尋ねます。「それらは生きることができるか。」37.3 神は預言者に骨に説教するように言います。「わたしは息（聖霊）をあなたの中に入れる。すると、あなたは生き返る。」骨が生き始めると、神は次にエゼキエルに言います。「息に預言せよ。人の子よ、預言して言え。」息よ、四方から来て、これらの骨に息を吹き入れよ。そうすれば、それらは生き返る。』37.9 するとすぐに骨は肉を生やし、復活した人間として集まり、軍隊を形成します。吹き渡る風の中から聖霊がやって来て、死んだ骨に命を吹き込み、第二の「誕生」を与えるというこの力強いビジョンは、二コデモへのイエスの言葉の豊かな聖書的背景を作り出しました。イエスはヨハネ3章でもまったく同じ言葉遊びを使っています。

8節でイエスは聖霊の「風」のイメージについて語っています。興味深いことに、聖霊に関するイエスの言葉が最終的に成就したペンテコステの日に、イエスを信じるすべての信者に同時に宿る聖霊の到来は、激しい風の音によって特徴づけられたとルカは語っています。使徒行伝2章2節 風の音と感触は、目に見えない聖霊の存在と彼らの中への到来の具体的な表現でした。それが、二コデモに対する新しい誕生についてのイエスの主張です。風は目に見えませんが、その影響は明らかに目に見えるものです...私たちはその影響を観察することができます。イエスはまた、風は主権者であると指摘しました。風は「思いのままに」吹き、人はその方向や強さを制御できません。私たちはそれに順応することしかできません。同じように、私たちは聖霊を最初目で見ることができませんが、その効果を見ることができます。聖霊は人々にイエスが主であることの現実を確信させ、人々が喜んで、さらには喜んで従順な僕として主に隷属し、神の王国の統治に入るといった大きな特権に感謝と驚きで溢れるようにします。そして、私たちの誰も彼の威厳、聖霊を制御することはできませんが、彼の指導に従うことによって彼に順応することはできますし、そうしなければなりません。聖霊のために吹く風のこのイメージは、彼の卓越した力を私たちに鮮明に思い出させてくれます。

息と風のイメージには対比があります。赤ちゃんの最初の呼吸は、信頼できる長期的なプロセスを開始します。聖霊は、呼吸する空気のように、信者を継続的に満たし、満たし続けます。一方、「風」は呼吸する空気よりも捉えにくいものです。確かに力強いものですが、風の動きの引き潮やその移り変わりの性質上、風についていくのは困難です。風に従い、聖霊に導かれるには、非常に敏感でなければなりません。空気のように聖霊を呼吸することは、私たちが常に聖霊の存在に依存していることを物語っています。風のように聖霊に従うことは、私たちが常に従順で、聖霊の導きに敏感である必要があることを示しています。聖霊に対する両方の態度は、神の国の生活に不可欠です。

JN 3.9 注釈

が聖霊の働きについて長々と言葉遊びで説明しているにもかかわらず、仕事で伝えるニコデモは「上からの第二の誕生」についてまだこの教えを理解できず、二度目にこう言いました。」どうしてそんなことがあり得るのでしょうか？」(3.4, 9)ニコデモが乗り越えなければならない障壁が少なくとも二つあります。第一に、すべての人(「あなた方はみな…」)が聖霊とダイナミックな関係を持つべきであるという考えは、彼にとってあまりにも大きすぎます。旧約の下では、聖霊の働きは基本的に預言者、王、大祭司に限定されていました。イエスが説明した方法で聖霊を経験することは、すべての信者にとって標準的なことではありませんでした。今日に至るまで、旧約の民は聖霊の働きを個人レベルで経験したり期待したりしていません。世界のあらゆる宗教の中で、すべての信者が聖霊の住まいとなり、その力によって生き、聖霊の親密な指導に従うというのは、キリスト教独自の主張です。しかし、イエスは「イスラエルの(聖書の)教師」が、エゼキエル書36章と37章、またはヨエル書2章28節から32節など、数ある中のほんの2つを挙げただけでも、聖霊に関する旧約聖書の約束を知り、理解することを期待していました。聖霊の人格と働きを理解するには、三位一体の概念が必要ですが、ニコデモにはそこまでの準備ができていなかったのです。これが第一の問題でした。それは、一世紀、そして今日のすべての一神教の人々が直面しているのと同じ問題でした。しかし、第二の問題は、ニコデモとすべての求道者にとって決定的な問題でした。それがこれです。

ニコデモも、当時の他のすべての人と同様に、メシアの人格と働きを誤解していました。ユダヤ人は長年にわたり、来るべき「油を注がれた者」(ヘブライ語で「メシア」、ギリシャ語で「キリスト」の意味)に関する正確な聖書の期待を蓄積していましたが、他の聖書の預言を誤解し、メシアに関する約束の他の側面、たとえば彼の苦しみや死を完全に見逃していました。したがって、「一般的な神学」、つまり油を注がれた者に関する一般的な信念と期待は、ニコデモが話していたメシアの現実とは大幅に異なっていました。イエスはニコデモを「教師」と呼び、ニコデモが認められた卓越した人物の一人であると考えました。ニコデモは旧約聖書の教師たちであり、イエスは彼が自分が言及している聖書の真理を理解することを期待していました。しかし、ニコデモはまったく理解していませんでした。

「油を注がれた者」に関する聖書の約束の中で基本的なのは、彼が彼を信じるすべての人に同じ聖霊の油「注ぎ」を与えるという預言でした。さらに、ニコデモは洗礼者ヨハネの説教に精通しており、ヨハネは来るべきメシアについてこの約束を主な強調点としていました。「私は悔い改めのために水であなただちに洗礼を授けますが、私の後に来られる方は私よりもはるかに力のある方です。私は身をかがめてその方の履物を脱がせる値打ちもありません。その方ご自身が聖霊と火であなただちに洗礼を授けてくださるのです。」マタイ3.12; レビ3.16; ヨハ1.33 神の油「注がれた者」の本質的な特徴の1つは、彼を信じるすべての人に油注ぎを及ぼす能力です。言い換えれば、メシアは新しい王国時代を開始し、その時代に神は、特権階級の少数の人々だけでなく、「すべての人に」御霊を注ぎます。これが、ペンテコステの日にペテロ」。が語ったメッセージの主なポイントであり、結論ですそれで、神の右に上げられ、父から約束された聖霊を受けたキリストは、あなたがたが見聞きしているこのものを注いでくださいました。」使徒行伝2:33。「それゆえ、イスラエルの全家は、あなたがたが十字架につけたこのイ

イエスを、神が主またキリストとしたことを、よく知っておくべきである。」 2.36ニコデモ、そして実際すべてのユダヤ人は、メシアに関するこの重要な真実を完全に見逃していました。メシアは、旧約聖書の預言者、大祭司、王の職務を聖霊の油注がれた力で組み合わせるだけでなく、信者全員に同じ聖霊を注ぎ、信仰によって彼のもとに来るすべての人に「上からの第二の誕生」を開くのです。(ヨハネによる福音書は、他のどの福音書よりも(はるかに)聖霊の人格と働きに関するイエスの神学を記録しており、私たちはそれらの節に近づくにつれて細心の注意を払います。)

もし私たちがメシアの人格と働きを誤解するなら、聖霊の人格と働きも必然的に誤解することになります。だからこそ、イエスを神の言葉を通して本当に見て知ることがとても重要なのです。イエスが語ったすべての言葉、そして聖霊に関してイエスが示したすべての例は、すべての弟子が注意深く研究すべきです。